

製作現場最前線

No.91

第一工芸㈱

(大阪市 東住吉区)

代表取締役・綿谷賢治 氏

「新しい表現を創り出し
未知の分野にもチャレンジ」



代表取締役・綿谷賢治氏（51歳）



社屋外観

『会社データ』

創業／1956年2月

資本金／1000万円

社員数／30人

所在地／大阪府大阪市東住吉区今林4-7-9

TEL. 06-4303-1001

FAX. 06-4303-1002

URL. <http://www.daiichi-kohgei.jp>

『営業品目』

交通広告・地下街広告・屋外広告・展示会・イベント・博覧会・ショールーム・ウインドウディスプレイ・博物館・資料館・商業施設・商店街・店舗・トータルサインなど
企業催事・公共催事の運営など

『主な設備』

溶剤IJP 2台、水性IJP 2台、ラミネート機 2台、カッティングプロッター 2台、アクリル裁断機 2台、ローリングタワー一式、溶接機、金物裁断機…他



①製作室の作業機はセロファンを加工していた時代の名残でガラス机になっている ②本館・資材置き場の様子 ③西館・作業工場

やりたいことをやる！

大阪市東住吉区に社屋を構えるサイン製作施工会社、第一工芸㈱。綿谷賢治代表取締役の父・治男氏が、1956年に大阪阿倍野区で起業、鉄道路線沿いの広告媒体や駅の交通広告を中心に手がけ、現在では商業施設の案内表示や博物館のディスプレイ演出、展示会のブース装飾、イベント運営までを幅広く行う。

次男である綿谷社長は「会社は長兄が継ぐもの」と、百貨店のディスプレイや展示会のブース設営を行う会社へ就職。そうした中、先代社長も体調を崩してしまう。同社の当時の幹部から「会社へ来て欲しい」と白羽の矢を立てられた。

「幹部の方からは、会社を経営する責任の重さを教えてもらった。経営者の息子に生まれたのも人生。そう思い会社を継ぐことを決意した」。志を高く持ち、若く血気盛んだった綿谷社長

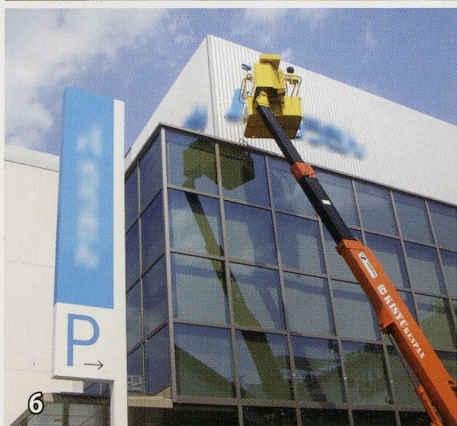
は、「やりたいことをやる！」と自身に誓う。99年2月、代表取締役に就任する。

鉄道媒体と太いパイプ

創業時から鉄道媒体と太いパイプを持つ同社は、83年に大阪市交通局と御堂筋線のドーム形装飾壁面を共同開発。今や複数駅での製作・施工、保守管理まで一貫して行っている。

ドーム形装飾壁面の施工は、ホームで通常使用されるビスが使えず、振動や風圧などの問題もある。そこで、「飛行機の製造で使われるリベットを導入できないかと考えた」。施工は当時としては異例の30人体制を敷き、ヘルメットや揃いの作業着を着用。また、同社のコンプライアンスの徹底なども高く評価され、受注拡大に繋がっていくことになる。

綿谷社長は、前職の経験を生かし、ディスプレイ分野にも業務の間口を広



④オフィスフロア ⑤デザインスペース ⑥塔屋看板ビット文字取付け施工
施工実績：⑦道頓堀・TSUTAYA 大型看板 ⑧地下鉄梅田駅ホーム・ドーム形装飾壁面

げ、業務の一柱となっている。

03年の道頓堀・戎橋南側にあるTSUTAYA大型看板(H22×W11m)の案件では、工事初期の段階から施工に関わって行った。「話題性の高い仕事に携わることで、得られるものは大きい」。

大型看板は月一回のペースで掛け直され、その手際の良い作業工程が地元のテレビ局で紹介されたこともあるという。

会社ビジョンは社員が作る

綿谷社長が経営強化面で重要視しているのが、「社員の発言を生かす環境づくり」。社内に設置された「意識向上委員会」は、投票で選出された役職付きではない社員が、会社の経営や問題点などについて自由な発想で議論し合う。

委員会での決定事項は、雇用計画や設備投資にも反映。月次で開催される

経営者会議では、部長クラスの発言として扱われるなど、社員同士の意見交換を積極的に行っている。

また、退職金は累計のマイレージ式制度を導入。毎年評価がポイントで貯まり、自分の退職金を知ることができるになっている。これも、社員のモチベーションを高く保つためのものである。

「会社のビジョンや、売り上げ目標も社員と共に決定している。社長は船長のようなもの。命を預かる責任があり、行き先や速度を決断していく役割を担っているが、一人で船を動かすことはできない」。

原点は“伝えること”

「社長就任時に決意したやりたいこととは、“コトづくり”。モノづくりにとどまらず、企画までをトータルで行うという私の造語で、何としても実現したかった」。業界内における情報

収集の意図からも発足した資材販売会社、(株)シート・アンド・シートを91年に(株)オープンプランニングへ改組。デザイン企画からイベントプランニングまでを行う子会社の設立で、ハード面のみならずソフト面の充実を図り、イベントや展示会の仕事へ事業を拡げることとなった。

サイン製作施工に留まらず、様々な分野において事業を展開する同社だが、基本スタンスはサイン事業の原点である“伝えること”と強調する。土台施工に伴う建設業の資格取得なども、全てはそのための欠かせない要素となる。

「新しい表現を創り出すことが、我々の使命と考えている。先代、諸先輩方のノウハウをバックボーンに、一のことを十にも百にもして、未知の分野に対しても積極的にチャレンジしていきたい」。

3年後の創業60周年へ、舵取りにも熱が入る。